

# 研究開発

THKは、「世にない新しいものを提案し、世に新しい風を吹き込み、豊かな社会作りに貢献する」という経営理念のもと、創造開発型企業として独創的な製品開発を続けています。

## 次世代を見据えたグローバルな研究開発体制

2017年10月に移転した新本社およびテクノセンター（東京都）を研究開発拠点として、基幹の直動システムをはじめ、精密XYステージやリニアモータアクチュエータなどのメカトロ機器に加え、自動車、免震・制震装置、医療機器などの消費財に近い分野において、直動システムのコア技術とノウハウを活かした製品開発に努めています。

海外では、2010年に中国で海外初の研究開発拠点となるR&Dセンターを設置し、2012年に本格稼働を開始しました。さらに、2015年から新たに連結子会社となったTRAのドイツの研究開発部門を加え、世界各地のお客様のニーズにより的確にお応えできるよう、米州・欧州・アジアを視野に入れた最適地開発体制の構築を進めています。



本社（東京都）



テクノセンター（東京都）



R&Dセンター（中国）

## 2019年12月期の取り組み

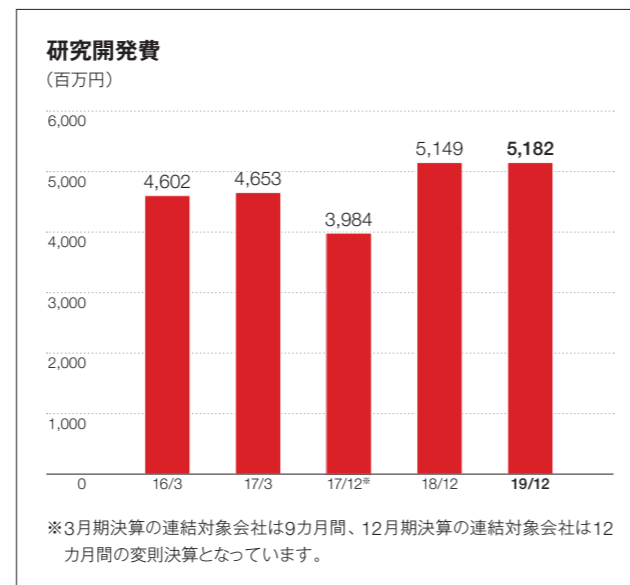
産業機器事業では、多様化するお客様のニーズにお応えすべく、LMガイド、ボールねじのラインナップを拡充するとともに、生産ラインの自動化に貢献する多種多様な新製品を開発しました。

IoT関連ではLMガイドの故障診断および潤滑診断システムを市場投入しネットワーク機能を備えた「OMNI edge」のサービス運用を開始しました。また、ボールねじでは予圧抜け診断の無償トライアル募集を開始しました。予兆の検知から補修品調達まで一貫したサービス提供の実現に努めてまいります。

さらに、あらゆる分野で自動化、ロボット化が進展する中、2019年12月に開催された「2019国際ロボット展」において、「動きの技術でヒトをサポート」をメインコンセプトに、様々な分野における自動化、ロボット化に寄与する数多くのデモ機や展示品を出品し、多くのお客様にお越しいただきました。

輸送機器事業では、自動車の電動化に伴い、軽量化ニーズへの対応と拡販に向け、新工法を採用したアルミ製品の市場投入を開始するだけでなく、北米では、アルミ鍛造技術を内製化し、お客様に出荷しております。また、L&S（リンクージ アンド サスペンション）事業だけでなく、第2の柱として、「CASE」関連の自動運転に寄与する直動製品を開発、量産しており、拡販に向け、シリーズ化を進めております。さらに、第3の柱として、お客様がまだ気づかれていない、5年先、10年先のニーズを見

据え、複合技術を取り入れた次世代製品の開発を、国内外の開発部門で推進するとともに、現在のお客様のニーズにお応えした製品ラインナップの拡充に努めてまいります。



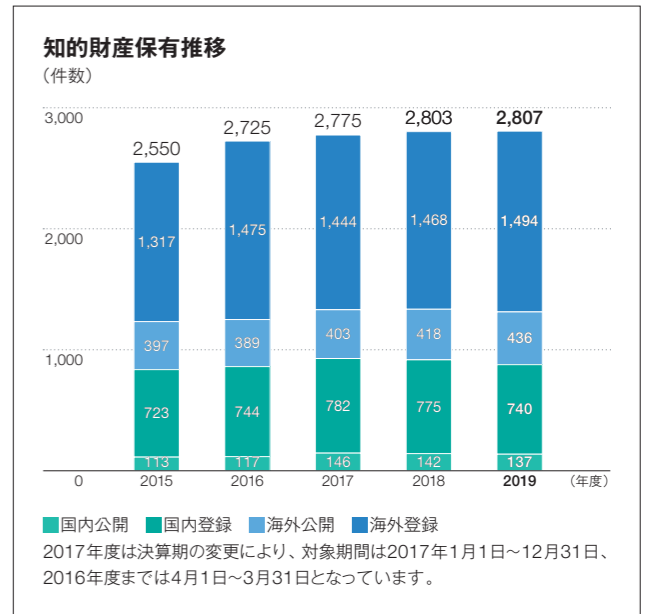
## 知的財産に関する考え方

### 基本方針

THKは創造開発型企業として独創的な製品を通じて世界中のお客様の発展と豊かな社会作りに貢献し続けるために、知的財産を尊重し自社の知的財産の創造と活用を推進していきます。

直動技術については、特許出願やノウハウ保全を通じて独占実施を行い、模倣品は徹底排除しています。一方、事業に関係する第三者の特許等を侵害しないように、企画・開発部門と連携しながら開発段階に応じた事前の特許調査を徹底し、特許回避にあたっては第三者の特許権等を尊重するように社内での啓発活動を行っています。

グローバル展開を含め、事業に貢献できる実効的な知的財産権の保全網を拡大させることを目指して取り組みを行っています。



## 自動化、省力化支援への取り組み

「2019国際ロボット展」において出展した、自動化、ロボット化に寄与する展示品の一部をご紹介します。



### ならいハンド

多種形状の対象物（ワーク）に対応するハンドで、製造ラインをサポートします。



### ピッキングロボットハンドシステム「PRS」

モノに合わせた多種多様なハンドで、物流ピッキングをサポートします。



### 自律移動制御システム「SIGNAS」

段差や複雑な経路も走行可能なロボットが建設現場をサポートします。